

子どものこころのケアの取組

1 現状

平成 23 年度から宮古、釜石、気仙の 3 地区に「子どものこころのケアセンター」（以下、「地域ケアセンター」という。）を設置し、県内外の医師の協力を得て、週 1 日程度、相談等を実施

○ 地域ケアセンター延べ利用児童数は平成 23 年度 287 人、平成 24 年度は 2 月まで 384 人

利用児童数	開設日数 (a)	延べ数 (b)	実数 (c)	1日平均利用児童数 (b/a)	1人平均利用回数 (b/c)
H23. 6～H24. 3	85 日	287 人	108 人	3.3 人	2.6 回
H24. 4～H25. 2	105 日	384 人	94 人	3.6 人	4.0 回

注 1 実数は、新規利用児童の人数、延べ数は新規及び継続利用を含めた人数

注 2 1 回の相談が、長時間に及ぶことから、1 日平均 3～4 人程度の利用

注 3 1 人あたり平均 4 回程度利用しており、継続利用児童が増加

○ 地域ケアセンター利用児童の約 9 割が、中学生以下

年代別利用児童数	未就学	小学生	中学生	高校生	計
H23. 6～H24. 3	63 人 (22.0%)	127 人 (44.2%)	62 人 (21.6%)	35 人 (12.2%)	287 人
H24. 4～H25. 2	54 人 (14.1%)	187 人 (48.7%)	102 人 (26.6%)	41 人 (10.7%)	384 人

注 1 震災や環境変化などによる「不安」、「不眠」、「心身症状」（頭痛、吐き気、倦怠感）等の症状を訴える方が多い

注 2 利用経路は、保護者約 41%、医療機関約 21%、学校約 15%、児童相談所約 12%、市町村等 11%

○ 県医師会による取組

県医師会が高田診療所において、平成 24 年 7 月から週 1 回程度、子どものこころのケアを実施。平成 25 年 1 月までに、延べ 23 人（実児童数 10 人）をケア

2 課題

- (1) 中長期的にこころのケアを要する子どもが多数
- (2) 沿岸部に子どものこころのケアに携わる医師、医療機関が少ない
- (3) 地域ケアセンターへ他県等からの長期的な医師派遣の継続は困難

3 取組

沿岸 3 地域の地域ケアセンターに加え、新たに、子どものこころのケアを中長期的にわたって担う全県的な拠点施設「いわてこどもケアセンター」を設置し、県医師会が運営する高田診療所、地元医師会、学校、民間団体等と緊密な連携を図りながら、取組を強化

- (1) 設置場所
岩手医科大学マルチメディア教育研究棟（矢巾町）1 階（建物スペース 588 m²）
診察室、心理療法室など診療に必要な施設機能を整備
- (2) 竣工予定
平成 25 年 4 月末
- (3) 運営
医師の確保・育成やこころのケアにノウハウのある岩手医科大学に、県が委託して運営する予定。運営費は、平成 25 年度当初予算案に計上し、議会の議決を経て決定されるもの
- (4) 機能
ア 地域ケアセンターへ継続的な医師派遣によるこころのケアの実施
イ 内陸部の子ども（沿岸からの避難者を含む）に対するこころのケアの実施
ウ 児童精神科医の確保・育成、小児科医や子どもの支援者への研修等による支援

こどもケアセンター体制図

